

しゃかいふくし ほうじん いわて かいこうほうし  
社会福祉法人 岩手ひだまり会広報誌

# ひだまり

2019.05  
vol.15



**みんななかよし!**  
え さ し い わ や どう  
**ひだまり江刺岩谷堂**



## 新年度の挨拶



理事長  
高橋洋子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうござい  
ます。そして、四月からご入学された皆さん、  
ご入学おめでとうございます。今回の卒業式  
と入学式は、平成最後の式となり、皆さんに  
とって忘れられない年となったことでしょう。  
五月一日からは、令和元年として、新たな年  
がスタートします。平成が、まさか三十一年  
で終わると思いきや、まさか三十一  
皇陛下が生きておられる間にこのような決断を  
され、後世にバトンタッチをされることは、  
大変素晴らしいことであり、見習うべき姿だ  
なと思えました。

岩手ひだまり会は、今年度もたくさんの新  
一年生を迎え、にぎやかに新年度をスタート  
しました。今年度ははじめての取り組みとし  
て、国連で定められた四月二日の世界自閉症  
啓発デー、そして日本で定められた四月二日

から八日までの発達障害啓発週間に合わせて、  
記念公開講座を開催しました。講師には、奥  
州市出身である自閉症療育アドバイザーのシ  
ズさんに来ていただき「発達障がいの子ども  
を伸ばす魔法の言葉かけ」と題して、ご講演  
をいただきました。先生が仰っていた「子  
どもが見たいのは、親の笑顔」というのがと  
ても印象的でした。子どもをかえるのではな  
く、自分自身を認め、自分自身を知ること  
(自己覚知)が大切だと改めて思いました。  
たくさんの方々にご来場いただきまして、誠  
にありがとうございました。

今年度の今後の事業計画として、昨年度か  
ら検討してきた重症心身障がい児や医療的ケ  
アを必要とするお子さん方を対象とした、デ  
イサービスの開設を予定しています。そして  
昨年度からはじめた子育てカフェ（ペアレン  
ト・トレーニング）にもさらに力を入れ、家  
族支援や幼児期からの支援にも力を入れてい  
きます。

利用者としてご家族の皆さま方と共に、ス  
モールステップで、岩手ひだまり会も成長でき  
たらいいなと思っておりますので、今年度もご  
支援・ご協力の程、よろしくお願い致します。

## 平成から令和へ、節目の年に

### 令和元年度事業計画・収支予算決まる

平成三十一年三月二十九日第七回理事会・  
第三回評議員会において平成三十一年度事業  
計画・収支予算が承認されました。ここでは、  
皆様に平成三十一年度の事業計画についてお  
知らせいたします。



第3回臨時評議員会

令和元年度社会福祉法人岩手ひだまり会事業計画

平成三十年年度の報酬改定は、区分制の導入や加算の変更などにより収入額に多大な影響を及ぼしかねないという危機感を持ちながら法人経営を行ってきたところ。

当法人にとって、区分制の導入（注）は、収入について好結果を生みだしました。また職員の配置基準の変更については、適正な人員配置に努めてきたところ。さらに、奥州市、北上市に新規参入の事業所が進出し、それぞれ差別化を図る事業を展開しています。利用者や保護者にとっては選択肢が広がることから、好ましいことではありますが、法人経営の観点からは、利用児者の固定化と安定化を図る手立てが必要な時代でもあります。

当法人の事業の展開には、マンパワーが欠かせません。昨今の雇用情勢を見ると御多分に漏れず職員の確保は年々困難を極めていきます。そのような中で、より積極的に求職者に訴える方法を模索していかねばなりません。今年度は、加算の取得に取り組み収入の安定を目指すほか、職員の配置基準に配慮しながら事業の展開を進めます。また、十月から



新規事業 楽しい子育てカフェ（ペアレントトレーニング）

実施される予定の消費税増税による報酬等の改正も予測されることから、それらの情報収集にも努めます。具体的として、重症心身障がい児のための事業所の開設、就学前の幼児を対象とした定期的な音楽療法の実施、昨年度から開設した楽しい子育てカフェ（ペアレントトレーニング）の通年開催など新たに進出した事業所との差別化を図ります。



全国重症児ダイネット代表 鈴木由夫氏をお招きして

また、就職相談会への参加やリクルート冊子の作成など職員確保に努めるほか、新たに住宅手当や資格手当を創設し、職員が働きやすい環境の醸成や職員の資格取得への意欲喚起を図ります。

今年度も「人に尽くし 人に学び 人に感謝せよ」の理念のもと、役員一丸となつて地域社会への貢献と社会福祉の増進を目指します。

注「区分制」厚労省から示された、児童のチェックリストの点数が十三点以上である障害児の数が事業所の障害児全体の数の五十%以上いるかどうかによりその事業所の報酬が変動する制度



# ひとり いちけんきゅうはっぴょうかい 一人一研究発表会

がつ にち すい みずさわちく おこな  
2月27日(水)水沢地区センターにおいて行われました。



今回の一人一研究発表会では、職員の日頃の研究成果を広く知ってもらいたく保護者の方々にもお声掛けし、ご参加していただきました。

千葉昭好研修委員長による開会の挨拶で始まり、高橋洋子理事長から挨拶を頂きました。その後、各事業所の管理者から推薦された十一名が順番に発表し、発表後は質疑応答・意見交換が活発に行われました。

発表終了後、大沼一裕常務理事より総評を頂き閉会となりました。

今回の発表会では、各事業所の利用者に関する研究だけでなく、保護者へ配布する広報誌の作成に関する研究や日頃の業務に係る研究等、研究内容は多種多様でした。パワーポイントを用いて発表を行い実際に支援の様子を映像に取り入れる等、発表者の創意工夫が見られ、発表者の伝えたいことがよく分かる発表となりました。発表者の方々、限りある時間の中お疲れ様でした。

今後は職員一人一人が一人一研究発表会で学んだ事を活かし、職員の支援の質が一段と高まり、利用者の成長へと繋がればと思います。

## ○一人一研究発表者

- 江刺桜木 保育士千田香保里
- 職員連絡帳の様式変更について  
水沢森下児童課 指導員 千葉彩夏
- Aさんへの継続的な取り組みや声掛けについて  
水沢森下生活課 看護師 八戸智子
- ケガをした時の応急手当  
江刺岩谷堂児童課 指導員 佐々木秀美
- ソーシャルスキルトレーニングとその後の支援  
水沢駅前 指導員 齋藤千夏子
- 一人で靴の紐が結べるように支援する  
水沢横町 保育士 高橋勝子
- アスペルガー症候群との関わり方  
北上中央 指導員 関 麻美
- 広報誌の作り方  
江刺第二桜木 主任指導員 阿部希美
- Rさんの将来を見据えて  
北上にこっと 指導員 松本 恵
- 指導員としての障がい児との関わりについて  
胆沢 児童発達支援管理責任者 渡邊保子
- 他害行為をなくすための職員の対応について  
本部 財務課主事補 昆野優介
- 生活習慣病について

せかいじへいしょうけいはつ きねんこうかいこうざかいさい  
**世界自閉症啓発デー 記念公開講座開催**

平成三十一年四月三日（木）奥州市水沢文化会館Zホールにおいて平成三十一年度世界自閉症啓発デー記念公開講座を開催いたしました。

この世界自閉症啓発デーとは平成十九年十二月十八日に開催された国連総会においてカタール王国王妃の提案により、毎年四月二日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われることが始まりました。日本においては、世界自閉症啓発デー日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障がいについて、広く啓発することを目的として、毎年、世界自閉症啓発デーの四月二日から八日を発達障害啓発週間として、シンポジウム等の開催や東京タワーのブルーライトアップ等の啓発活動が行われました。



shizuさんより写真掲載はご遠慮いただきましたこと、本人自筆の似顔絵と当日チラシを掲載します。

岩手ひだまり会では保護者会の皆さんと共に、これらの趣旨に賛同し、自閉症をはじめとする発達障がいについて多くの皆様に理解をしていただくことで、発達障がいのある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考え本講座を開催いたしました。

第一回の講師としてお願いしたのが、奥州市（旧水沢市）出身の自閉症療育アドバイザーのshizuさん。shizuさんは自身の子育て経験をもとに子どもを褒めて伸ばすことの大切さについてお話しいただきました。「口角あげて（笑顔で）がんばりましょう」と会場に集まった約百名の親御さんと福祉関係者へ、九十分間にわたりご講演いただきました。

**新規採用職員を紹介します。**

春になり、ひだまりにも新しい仲間が増えました。ここで皆さんに紹介します。



ひだまり 江刺 枝木 千香  
**指導員** 藤原 千香  
 慣れない事も多いですが、子供たちの成長のお手伝いができるよう頑張ります。



ひだまり 胆沢 美智江  
**保育士** 小原 美智江  
 楽しい思い出をたくさん作っていきたいと思います。



ひだまり 北上 中央  
**指導員** 齋藤 栄一  
 仕事を早く覚えて子どもたちに受け入れてもらえるよう、努力、経験を重ねたいと思います。



ひだまり 北上（こごと）  
**保育士** 齋藤 明子  
 「頑張ります。」



本部 重症デイ設立準備室  
**事務職員** 伊藤 恵美  
 保護者会でお世話になっていました。これからは重心・医療的ケアの必要な子ども達のために頑張らせていただきます。



# ひとりいちけんきゅうはつびょうかい 一人一研究発表会を聞いて

以前から一人一研究をひだまりの取り組みとして行っている事は知っていましたが、今回初めて発表を聞かせて頂きました。率直に言って本当に素晴らしいかったです。勉強になりました。

利用者への継続支援がほとんどであろうと思っていました。自分達の仕事の削減や広報誌等、テーマが多岐に渡っている事に驚き、そしてそれぞれ内容の深さにびっくりしました。成長のゆつくりな私たちの子供への根気強い取り組みに頭が下がる思いです。又、一人一研究と言う事業が、どれも、一人でやるものではなく、利用者に対し事業所全体に周知し支援をしていく事。それで職員間のコミュニケーションが活発となり高い支援を生み出すのだと思い感じました。

したいと思っております。そして職員連絡帳等の仕事削減に繋がる事は全事業所で使用出来るように引き続き頑張ってください。素直に思いました。又、広報誌も利用者家族は楽しみにしております。

職員がどんなに頑張っても保護者に伝わらない事が多く、その頑張りや今この研究発表会を見させて頂いた事により保護者に伝える事が出来る。と思いました。役員会でできるだけ多くの事をお伝えするようにします。

ひだまりと言う事業所を利用して本当に良かった。と言えるそんな一人一研究発表会でした。保護者会前会長 伊藤 恵美

(平成三十一年四月二十日保護者会総会において伊藤恵美会長から及川幸子会長に代わりました。詳細については次頁で紹介いたします。)

## ペアレントトレーニングを開催しました

平成三十一年二月より四月まで、「子育てカフェ」を二週間に一度のペースで開催しています。カフェでリラックスし、子育てへの不安解消と気分転換をする場所として、保護者の方が安心して過ごせるような居場所づくりを心掛けています。「精研式ペアレントトレーニング」の内容を取り入れながら、子どもの「好ましい行動」に目を向けて子育てをする方法を学んでいます。通常は全十回で行うプログラムですが、基本となる部分の第六回までのプログラムを、今回は四名のお母さんと二名の講師先生で行っています。ペアレント



紫波さぶり理事長・紫波の子育てを考える会  
れんと副会長 細川恵子先生 (右奥)  
臨床心理士 樋渡朗子先生 (左奥)

トレーニングの後にはランチを食べながらお喋りをして、交流を図りました。このペアレントトレーニングは今年度も行う予定です。詳細につきましては決まり次第、チラシ等でお知らせします。お問い合わせは相談支援事業所ひだまり (0197-474234) までお願いいたします。

## 保護者だより

えさしだいに さくらぎ  
ひだまり江刺第二桜木  
保護者や職員の方々には  
いつもお世話になっています。



はは おや おの なつみ さん  
母 親 小野 津美 さん  
おとうと お小野 翼 さん  
りようしゃ お小野 かける 翔 さん  
利用者 小野

翔がひだまりを利用し始めて一年が経ちました。ADHDの翔はコミュニケーションの取り方が上手く出来ない為、心配していましたが、今ではとても楽しく利用する事ができ、翔にとって居心地の良い場所になっています。

四月から中学生になりましたが、不安と希望を胸に抱きながら入学し、どんな中学校生活を送るのを楽しみます。

保護者会や懇親会等に参加させてもらい、人見知りでドキドキしている私に優しく声を掛けてくださるお母さんたち。いつも暖かく見守り、色々な相談を親身になって聞いてくれる職員の皆さん



## 放課後デイサービス卒業生紹介

及川

幹さん (十九歳)

には本当に感謝しています。  
四月からは次男もひだまりを利用させてもらっています。これからも家族共々よろしくお願ひします。

## 先輩と同じ量の仕事を

素早く、丁寧に

こなしています

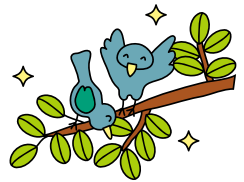
及川幹さんは、ひだまり水沢森下児童課に十一年間通所し、去年三月に前沢明峰支援学校高等部を卒業しました。現在はコスモスで仕事をしています。

ひだまり水沢森下児童課に通所していた頃は、自分で一日のスケジュールを考えていました。その中にボールペンの組み立て、クリップの色分け作業、大小様々な大きさのキャップ締め等を入れ、少しずつ就労へ向けて取り組みました。

コスモスでは、一年目ですが、先輩方と同じ量で様々な仕事を素早く、丁寧にこなしています。

今後も持ち前の明るさで仕事を頑張ってほしいです。





# 「東京物語（八）」



広報・研修担当理事  
向山 晃

昭和六十年「東京都育成会」（東京都親の会）から連絡が入り、三月突然「東京都立江東通勤寮」の寮長になる事になった。

東京都立江東通勤寮は全国の百八カ所（当時）のまとめ役として、春に実施される厚生省主催の施設長会議通勤寮（自立訓練施設）の実施責任者と全国愛護協会（当時）の主催する全国大会の部会運営をするのが役割だった。

それは、東京都立江東通勤寮の寮長は部会の副会長（事務局長）になる事が国が定めた通勤寮制度設立から決められているようだった。  
そこについても、「田舎者」とバカにされながらなんとか職務を果たせたのは通勤寮のスタッフに恵まれていたからだと思います。  
当時、グループホーム制度が厚生省で準備

されていたため、当時のときわ寮長の千葉正男（当法人の前常務理事）さんに上京していただき、全国通勤寮の入所者資料、過去五年間の退所者の資料を一つにまとめ、厚生省の依頼に応えたのが大きな仕事だった。その為、何度か厚生省担当者に会いに本庁に行ったのも懐かしい思い出である。  
こんな形で全国の通勤寮部会の会長を最後に「練馬区立大泉つつじ荘」、法人立の「世田谷生活支援ホーム」を立ち上げて東京を離れ、再度岩手でお世話になる事にした。

## 編集後記



今回の第十五号では新年度からの各事業所新規職員を紹介しています。新しく採用された職員を保護者や関係者の皆様に改めて名前や顔を覚えていただけたら幸いです。

他にもひだまりの取り組みもある。一人一研究の様にも紹介せねばなりません。新年度も様々な様子や情報を紹介していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。  
(藤田 明徳)

## 寄贈品について

- 以下の方よりご寄贈頂きました。
  - 平成三十年七月十一日  
北上・和賀・北上国見、江釣子  
ライオンズクラブ様より
  - グループジャ盛岡観戦チケット十四枚
  - 平成三十年七月十一日  
株公楽 ウィンズ奥州店様より
  - お菓子詰め合わせ二百個
  - 平成三十年八月四日  
照井信一様より
  - 商品券、グリーンタカラ一箱
  - 平成三十年十月二十九日  
西丸冷様より 長テーブル四台
  - 平成三十年十一月九日  
大家 大塚守様より
  - 唐津みかん（ニキロ）二箱
  - 平成三十年十二月十七日  
及川俊規様より テレビ
- ご寄附いただきました方々  
ありがとうございました。

## お詫びと訂正

ひだまり会広報誌第十四号におおし誤りがありましたことお詫び申し上げます。  
七ページ保護者だより  
(誤) 母由美さん → (正) 母由美さん  
大変申し訳ございませんでした。

発行・編集 社会福祉法人若手のたまり会 広報委員会  
TEL: 0197-47-4222 FAX: 0197-47-4223 URL: <http://ousyu-nidamarai.or.jp>

印刷 有限会社江利プリント社 ■若手のたまり会法人本部  
住所 〒023-0818 奥州市水沢東大通り二丁目4番3号  
『社会福祉法人若手のたまり会』をクリック